

～区内大学連携事業～

せたがやeカレッジ公開講座

世田谷区内の大学（国士館大学・駒澤大学・昭和女子大学・東京都市大学・東京農業大学）と区教育委員会が連携し、インターネットを通じて世田谷の豊かな知恵を発信している「せたがやeカレッジ」が、公開講座を実施します。

平成28年

2/23(火)

13:00～16:30
(開場12:30)

入場無料

会場

東京農業大学 世田谷キャンパス
「百周年記念講堂」

世田谷区桜丘1-1-1

（小田急小田原線 経堂・千歳船橋駅徒歩 15分）

※お車での来場はできませんのでご注意ください

※裏面に地図あり

※講演には手話通訳がつきます

第1部 13:20～14:40 国士館大学 北川 善廣 教授



「世田谷の川を活かした
潤いのあるまちづくりと人づくり」

世田谷区立城山小学校などの児童とその親を対象とした「川で遊び
川に学ぶ親子体験学習」の様子などから学ぶべきことを紹介します。

第2部 15:00～16:20 東京農業大学 黒瀧 秀久 教授



「日本近代化に尽力した榎本武揚
から学ぶ地方創生のヒント」

東京農業大学“生みの親”である榎本武揚の箱館
戦争後の半生を紹介しながら、「地方創生」にむけ
て我々が学ぶ視点を紹介します。



主催：せたがやeカレッジ運営委員会

問合先：世田谷区教育委員会 生涯学習・地域・学校連携課

電話：03-5432-2731 FAX：03-5432-3039

再生紙を使用しています



eラーニングを始めてみませんか？

せたがやeカレッジでは、各大学の特長を生かした様々な講座を、パソコンやスマートフォンなどから無料で簡単に始めることができます。ぜひ、ご利用ください。

せたがやeカレッジ

検索



<http://setagaya-ecollege.com>

QRコード



● 公開講座 講演者プロフィール

國立館大学 北川 善廣 教授

1976年3月 早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了
1979年3月 早稲田大学大学院理工学研究科博士後期課程満期退学
1996年4月 國立館大学工学部土木工学科教授
現 職 國立館大学理工学部まちづくり学系教授 博士(工学)

東京農業大学 黒瀧 秀久 教授

2000年 米国ミシガン州立大学農業・自然資源学部客員教授
2005年 東京農業大学生物産業学部産業経営学科教授、オホーツク実学センター長
2006年 中国南京農業大学中華文明発展研究院客員教授
2012年 東京農業大学生物産業学部地域産業経営学科教授 東京農業大学網走寒冷地農場長
2014年 東京農業大学生物産業学部長

● 会場アクセス

小田急線

◆ 経堂駅下車 ◆ 千歳船橋駅下車 徒歩 約15分

バス 約5分 東急バス <千歳船橋駅～農大前>

- ・渋谷駅行………(渋23)
- ・等々力操車所行…(等11)
- ・用賀駅行………(用01)

東急田園都市線

◆ 用賀駅下車 徒歩 約20分

バス 約10分 東急バス <用賀～農大前>

- ・世田谷区民会館行………(園02)
- ・祖師ヶ谷大蔵駅行………(用01)

※お車での来場はできませんのでご注意ください



東京の 川を歩こう



北の文化

北海道で榎本武揚の名前を知らな
い人は少ないだろう。今から147

年前、戊辰戦争後の箱館戦争で新政
府軍と戦い、敗軍の将となつた人物
としてである。しかしながら、榎本
が73歳の生涯を終えるまで、我が國
の近代化に尽くし、大きな歴史的足
跡を残したこととは意外に知られてい
ない。中には箱館戦争で討ち死にし
たと思っている人もいるほどだ。

その波に満ちた人生は、不屈の
精神に支えられていた。彼が残した「冒
險は最も良き精神」という言葉は、
手があり、生誕180年という節
目の今年、現代に生きる我々が学ぶ
べき点を考えてみたい。



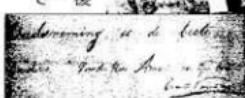
榎本武揚のフロンティア精神上

黒瀧秀久

東京農大生物産業学部長

所に入学する。
1862(文久2)年、幕府は列
強に対抗するため軍艦「開闢丸」を
オランダに発注し、留学生15人を派
遣する。その中に榎本もいた。途

列右から3人目) II 国立国会図書館
『榎本の自筆による「開闢は良き師
である」の草稿(東京農業大学提供)



「冒險は最良の師である」

中、乗った船が沈没するなど命懸け
の航海の末にオランダに到着、3年
余にわたり、近代ヨーロッパを見聞
した。学んだ分野は造船学、蒸気機
関学、物理学、化学、鉱物学、製鐵
技術や電信技術、国際法など幅広く、
糖蜜からの焼酎製造、人工照明器の
研究にまで及ぶ。この時の経験が、
後にオランダ語で友人に送った書に
「冒險は最良の師である」とい
う言葉を生んだ。

だが、帰國した榎本を待っていた
のは新政府軍との戦いであった。大
政奉還で江戸幕府が265年の歴史
に幕を下すと、榎本は開闢丸を率
い、蝦夷地(北海道)に向かう。その
目的は、隊を失った旧幕臣を開拓に
従事させ、豊富な地下資源を生かし
て、農業を中心とした貿易
産業を興し、箱館を中心とした貿易
によって「蝦夷共和国」を建国する
ことだった。しかし、新政府軍との
戦いで敗れ、夢は幻に終わる。
投獄され死を覚悟した榎本であつ
たが、救助運動によって出獄を果た
す。その中心になつたのは、箱館戦
争で敵として戦つた黒田清隆だっ
た。戦闘の最中、榎本は黒田に、フ
ランスのオルトランが著した国際法
の解説書「万国海律全書」の手書き
のオランダ語版を贈っている。その

所に入手する。

1862(文久2)年、幕府は列
強に対抗するため軍艦「開闢丸」を
オランダに発注し、留学生15人を派
遣する。その中に榎本もいた。途
中、乗った船が沈没するなど命懸け
の航海の末にオランダに到着、3年
余にわたり、近代ヨーロッパを見聞
した。学んだ分野は造船学、蒸気機
関学、物理学、化学、鉱物学、製鐵
技術や電信技術、国際法など幅広く、
糖蜜からの焼酎製造、人工照明器の
研究にまで及ぶ。この時の経験が、
後にオランダ語で友人に送った書に
「冒險は最良の師である」とい
う言葉を生んだ。

だが、帰國した榎本を待っていた
のは新政府軍との戦いであった。大
政奉還で江戸幕府が265年の歴史
に幕を下すと、榎本は開闢丸を率
い、蝦夷地(北海道)に向かう。その
目的は、隊を失った旧幕臣を開拓に
従事させ、豊富な地下資源を生かし
て、農業を中心とした貿易
産業を興し、箱館を中心とした貿易
によって「蝦夷共和国」を建国する
ことだった。しかし、新政府軍との
戦いで敗れ、夢は幻に終わる。
投獄され死を覚悟した榎本であつ
たが、救助運動によって出獄を果た
す。その中心になつたのは、箱館戦
争で敵として戦つた黒田清隆だっ
た。戦闘の最中、榎本は黒田に、フ
ランスのオルトランが著した国際法
の解説書「万国海律全書」の手書き
のオランダ語版を贈っている。その

1862(文久2)年、幕府は列
強に対抗するため軍艦「開闢丸」を
オランダに発注し、留学生15人を派
遣する。その中に榎本もいた。途
中、乗った船が沈没するなど命懸け
の航海の末にオランダに到着、3年
余にわたり、近代ヨーロッパを見聞
した。学んだ分野は造船学、蒸気機
関学、物理学、化学、鉱物学、製鐵
技術や電信技術、国際法など幅広く、
糖蜜からの焼酎製造、人工照明器の
研究にまで及ぶ。この時の経験が、
後にオランダ語で友人に送った書に
「冒險は最良の師である」とい
う言葉を生んだ。

だが、帰國した榎本を待っていた
のは新政府軍との戦いであった。大
政奉還で江戸幕府が265年の歴史
に幕を下すと、榎本は開闢丸を率
い、蝦夷地(北海道)に向かう。その
目的は、隊を失った旧幕臣を開拓に
従事させ、豊富な地下資源を生かし
て、農業を中心とした貿易
産業を興し、箱館を中心とした貿易
によって「蝦夷共和国」を建国する
ことだった。しかし、新政府軍との
戦いで敗れ、夢は幻に終わる。
投獄され死を覚悟した榎本であつ
たが、救助運動によって出獄を果た
す。その中心になつたのは、箱館戦
争で敵として戦つた黒田清隆だっ
た。戦闘の最中、榎本は黒田に、フ
ランスのオルトランが著した国際法
の解説書「万国海律全書」の手書き
のオランダ語版を贈っている。その

ほっかいどう

土曜考
える

火曜学ぶ 水曜生きる

木曜よむ・語る 金曜楽しむ

北の文化

「敗軍の将」でありながら、榎本武揚は日本の近代化に大きく寄与した。北海道開拓使を離れた後は、特命全権大使としてロシアとの国境交渉に挑み、樺太・千島交換条約を締結した。帰國後は外務、通商、文部、農商務大臣ならびに明治政府の要職を歴任、官営八幡製鉄所の設立や海外への植民推進などに尽力する。

榎本武揚のフロンティア精神下 黒瀧秀久 東京農大生物産業学部長



明治新政府で要職を歴任した当時の榎本武揚

文部大臣就任時に、榎本は次のように述べた。「そもそも一般教育上の本意義においても、他の各般主義と同じセオリーとフランクチスの二者はあたかも車の両輪の如く並び行わればはじめて完全な教育と為すものになる。そして頗るかくは学生はなるべくフローダクチーフすなわち生産的にしてほしい」

榎本はこのように、日本の教育が座学主義で理論に偏り、実学＝実践がないと批判した。理論と実践の両方があって初めて真的教育が実現する。そうでなければ学問は非生産的なものに過ぎないという指摘は、現代にも通じる問題である。これが本

学の「実学主義」の原点である。

こうした理想を実現するため、榎本は旧幕臣子弟の教育機関として、東京・飯田橋に「育英館」を設立する。これは榎本の「フロンティア、チャレンジ精神を受け継ぎ、地域や社会に貢献しよう」という強い意志と広い視野、明確な問題意識を持つ人材を育むために新設した自己推薦型の入試である。小論文、面接、プレゼンテーションで選考し、合格者には入学金や授業料の一部免除などのスクラッシュを給付し、入学後は「榎本フロンティア塾」で4年間学ぶ。

この初めての試みに、全国各地から83人の応募があり、この4月から、榎本の志を胸に38人がオホーツクの地で学ぶことになる。

「冒険は最良の師である」という

現代は時代の大きな転換点である。グローバル化の波が世界中で大きなうねりを起こし、わが国も社会経済のあらゆる分野でこの波にのみ込まれ、揺れ動いている。これは、幕藩体制によって200年以上続いた「鎖国政策」が、歐米列強の外圧によって終わって、榎本が生きた激動の時代とも重なり合う。今、日本はグローバル化という新たな「開国」を迫られ、この社会変動にどう対応していくかが問われている。

榎本の精神に学びながら、本学部は地域に根付いた大学。そして、今後ともグローバル化が進む中でローカルのあり方を考え、国際的活躍と地域の活性化を追求できる担い手を輩出していきたいと考えている。

とりわけ、消滅さえ取りざたさ

れる地方では、「地方創生」をリード

する地域活性化の担い手の育成、確

保が求められている。そのため、本

学部では今春に入学する学生を対象

に「日本再生・地方創生に挑戦する

理論と実践こそ真の教育

意欲を持った若者を養る「榎本武揚の「フロンティア入試」」を実施した。これは榎本の「フロンティア、チャレンジ精神を受け継ぎ、地域や社会に貢献しよう」という強い意志と広い視野、明確な問題意識を持つ人材を育むために新設した自己推薦型の入試である。小論文、面接、プレゼンテーションで選考し、合格者には入学金や授業料の一部免除などのスクラッシュを給付し、入学後は「榎本フロンティア塾」で4年間学ぶ。

この初めての試みに、全国各地から83人の応募があり、この4月から、榎本の志を胸に38人がオホーツクの地で学ぶことになる。

「冒険は最良の師である」という